

## 第4回 小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設運営連絡会

議事要録  
日 時：令和元年7月20日（土） 午前10時から午前11時40分  
場 所：資源物中間処理施設  
参加者：4名 傍聴者：3名

＜説明内容＞  
・採集状況（5・6月）  
・緊急停止時の復旧手順  
・イソシアネートに係る情報  
・VOC四季ブランクデータ  
・悪臭調査

＜確認事項＞  
・第3回議事要録の確認

＜主な質疑等＞  
1 施設の稼働状況について  
（委員）  
・施設で分別する中で、市によって幅や分別状況が違うところがあると思いますが、気づいたこと何かありますか。  
（組合）  
・市によって違いがあるように感じています。すでに、収集作業員の会議の席で状況を伝えています。現在、市とも調整していますが、組合で組成分析調査を行う予定で、その結果を伝えることで、分別の徹底を図っていただきたいと考えています。  
（委員）  
・組成分析の予定としてはいつくらいか。  
（組合）  
・8月には行いたいと思っています。不選物の混入は、基本的には市民の分別不徹底によるものです。市民へのPRについては市にお願いをしています。組合では、不選物について、収集段階で分かるものは確認し搬入しないように、収集作業員への説明を続けています。ご存じのとおり収集作業員の方は非常に忙しい、収集袋を収集車に投げ込む作業の中でどこまで確認できるのは収集作業の方の意見を聞きながら、ということになります。

（委員）  
・最終的いつと、市民の分別になると思うので、収集する段階で分別するというは現実的ではないと思います。市民に対するその市広報の仕方とかそういうところも含めて、是非担当者は1回来て話をさせていただけるとうりがたいと思います。  
（組合）  
・今般、次の運営連絡会の日程が決まった段階で、各市に出席を要請をしたいと思います。

（委員）  
・不選物品の（搬入する資源の中の）割合は、結局持ち込まれた量の按分で出していくしかない。市ごとに料金がかかっていくわけだが、それが一律にされて、きっちり分けられているところも、結構いい加減なところも、同じように経費負担せざるを得ない。その辺で不公平。私なんか東大和だけと、その辺おかしいと思う。  
（組合）  
・市ごとの良し悪しもありますけど、組合として、全体が現状で良いとは思いません。例え今良いところで更に良くしてもらうという努力は、施設側として不選物はゼロにしてほしいので、強力に要請していきたいと思います。

2 依頼事項について  
（1）緊急停止時の復旧手順  
（委員）  
・（トラブルがあった場合）運営連絡会で報告、説明をするということですが、今は2か月1回開催しているが、運営が安定してきたら年に2回程度まで減らしていくという理想が、以前あったと思う。その場合、例えばVOCの濃度異常があったときに副長が半年空いてしまうとすると、期間的に長すぎるのが若干気になることですか。  
（組合）  
・わかりました。下段のVOC濃度異常については直ちに皆さんに連絡して集まっていたらいいので、報告をすることとします。

（委員）  
・運営連絡会じゃなくても良い。事情説明みたいなものを開いてもらって近隣の人が参加できるようにして、運営連絡会の代表だけではなくて、近くの人には気になるのだから、参加するよう形にしたいとダメだと思います。  
（組合）  
・スムーズに状況を皆さんにお知らせするという形としたいと考えていますが、状況よりです。どちらにしても速やかに情報提供をするつもりです。  
・これは中島町でも同じ対応させていたいです。あってはいいのですが、中島町では環境署が取りまして、そのときは直ちに文書で皆さんにお知らせをしています。同じような対応をいたします。

（委員）  
・火災のリスクもあるでしょうし、作業されている方の安全衛生上の問題も発生する。市民サイドは意見を向上させないと、それも含めて9月に担当者に来ていただいて、話をさせていただきたいと思っています。

（2）イソシアネートに係る情報  
（委員）  
・海外では規制の対象になっているのですか。  
（組合）  
・法令の規制はありませんでした。例えば、資料の3ページの中段下にありますか、アメリカの産業界専門会議の勧告している値があります。規制基準がいくつというのはない。無毒性量の値を決めますとか、いろんな組織、機関が勧告なり判断をする値を示しているようです。

（委員）  
・許容濃度ってこれを超えたらまずいということですよね。  
（委員）  
・例えば、1日8時間、週40時間の繰り返し労働における作業者の許容濃度は、確か一般的にはその濃度を1日8時間を一生涯、その環境に居続けても影響がほとんどないことである数値ですよね。安全衛生規則なかで。  
（組合）  
・隔週で申し上げます。室内濃度指標、厚労省のμsというのも家庭の中での濃度がそれ以下であれば、一生そこで暮らしても問題なくらいという数値です。ここで、今おっしゃったところを見ると、0.45mと示されています。組合が測定しているのはμsですから、μsに換算すると450になります。ですから高い濃度であると思います。イソシアネートは調べて分かったのは、分かっていない質であるということですよ。いろんなところでいろんなことが言われていますけど、良くわかってない。測定方法も確立していないようです。

（委員）  
・この施設でそういうものが発生する可能性は低いと考えていますか。  
（組合）  
・健康への影響があるような濃度となる可能性は、非常に低いと思います。ただ、ゼロということはないです。大気中にもあります。

（委員）  
・それは他の物質についても同じですよね。イソシアネートに限らず。  
（組合）  
・そうです。

（委員）  
・排出に関してイソシアネートも考えるという事ですね。つまり、フィルター通して光触媒で除去し出すわけですよね。その時には当然除去されていると考えるってことですね。  
（組合）  
・活性炭吸着は効果目があると思いますが、光触媒がイソシアネートを分解する力があるかどうかは分かりません。

（委員）  
・地域住民としては、尿の分らない物質が出てしまっって、個人差があって知らない間に健康被害を受けるのが一番怖いので、健康被害に関しては十分注意してもらいたい。組合としてアンケートをとってもらうとか、ある程度の段階では必要であると思います。  
（組合）  
・組合としてアンケートは取りません。何かあったら組合に言ってきてください。  
・不安をお持ちの力に対して組合が説明をして、不安をできればないような状態にさせていただきたいというのがこの会の最も大きな目的です。日常で使っているペットボトル、トイ、お菓子の袋、ジャップー、リップス、化粧品などもそうですけれども、家庭の中でたくさんあるものを処理しているわけですから、基本的に健康に影響があるものは発生しないだろうと思っています。ただ、それが集まることによって何かあるのではないかと皆さんお思いなので、そのことに対して答えたいように思っています。イソシアネートについて言えば、生活の中で建材などに多く使われているわけです。この方（研修室）が濃度が高いのではないかとという気がします。新幹線のとこか。

（委員）  
・ここから出る排気よりもということですよね。接着剤とか書いてあるのですが、壁紙の接着剤とかに入っていますよね。  
（組合）  
・はい。

（委員）  
・イソシアネートに限らず、日常的に使っているものは安定した状態で使っているが、ここ（施設）でやっているのは、破砕とか圧縮梱包とかやるわけですよね。  
（組合）  
・破砕はしていません。破袋、袋は破っています。

（委員）  
・ペットボトルと容リラの圧縮梱包をしているわけですよね。前提として、まず弊らは（化学物質が発生しているとしても）納得して使っている物と、（施設でそこそこで使）納得してないものに対して、被害を感じていることには違いがある。それから、使っているものに関しては、僕らが日常的に使っている物と、ここで圧縮梱包の作業をして発生するものは違うわけだから。家で使っているから大丈夫という認識はちょっとおかしいと思います。

（組合）  
・圧縮梱包処理は、物理処理ですから、焼却炉のように燃やしてはいないの、化学変化によって何かができるということは少ない。ほほないといえます。厳密には、摩擦がありますので、少し熱は出ます。ただ、圧縮するときの密閉面はとけはしません。

（委員）  
・地域住民としては、何かが出ているのではないかといい恐れは感じるので、この会にも参加するわけだし、しつこく言っているわけです。  
（組合）  
・環境測定などをお示しし、説明を通じて安心をしていただきたい、という（運営連絡会）会なので、組合はそういう数値などを皆さんに公開していきます。

（3）VOC四季ブランクデータ  
（委員）  
・T-VOCのそれぞれ別の測定方法（ブランクと性能検査）が異なっているということなので、前回の性能検査のとき、T-VOCが確か120とかという数字が書いてあったと思いますが、それとこのブランクの平均、5.0、4.2、一番高いところで5.0というのが一概に比較できないという認識で良いか。  
（組合）  
・その通りです。

（委員）  
・前回のT-VOCの測定方法が異なる、厚労省と環境省で、どちらの方が数字が高くなるのか。  
（組合）  
・私（片山）は、環境省の方が高くなると思います。

（委員）  
・環境省の方が高い数値が出るとなると、ブランクデータの方が高くなるという事ですよね。そちらで4.2とか出ていたものが実際の性能検査より少ない出る数字で、120とか出ちゃうと印象として高くなるのかなと、結構高い数字が出ているという認識になっています。そのあたりの不安を解消していたりするような説明をしていたらいいのかなと思います。  
・あと、ブランクデータの方でもマックスとミニマムも教えていただきたい。平均が四季ごとのものしかこちら載ってないので、次回お願いいたします。  
（組合）  
・環境省の方が大きく出るだろうと言った理由は、環境省のVOCの定義が常温で気体である有機化合物をVOCと定義（一部、光化学オキシダント、スモッグに関連ない物質を除くというふうになっている。）しているのに対し、厚労省のVOCは炭素数が6から16の範囲の有機物と定義しているためです。範囲が狭いので、小さくなるのではないかと想像されるからです。もしかすると変わらないうちもれないし、たとえは物質が漏ったりすると違ってくると思います。

（委員）  
・地域住民に対して影響が及ぶであろう範囲については。  
（組合）  
・施設が影響を与えるであろう範囲として設定したが、この運営連絡会の対象範囲です。この範囲は、ひとつには収集車両が通過する道路を生活道として利用されていると考えると考えられる範囲、もう一つは施設が処理できる施設から半径200メートルの範囲としています。近くに建設された、新しい施設が何年か経って新しい施設がわからない状況は、不安になる方もいるのではないかと考えて設定しました。

（委員）  
・中島町は、排気について調べて、確か600mの範囲で、こちらは200mとしている。排気調査はやらないのか。  
（組合）  
・中島町の処理は化学処理で、新しい物質ができて、それが有害であることが分かっています。また、それらについては規制基準があって、拡散計算をした結果に基づいて範囲を決めています。

（委員）  
・説明を受けているだけであって、常に不安が付きまわっている。中島町に比べると大雑把で納得できないです。  
（組合）  
・中島町の施設は、焼却施設ですから排気ガスが出ます。こちらはそのような施設ではありません。

（委員）  
・ここは、中島町の施設の影響範囲でもある。複合汚染も考えられる。  
（組合）  
・有害物質などをゼロにすることは不可能です。リスクゼロはあり得ない。だからいまで着る技術水準で、基準値を設定しています。

（委員）  
・複合汚染の心配がある。そもそも、この場所なぜ造ったのか疑問がある。影響を受けることは十分認識してもらいたい。

（4）悪臭調査について  
（委員）  
・投入ピットから車両が出るときに臭いがしたとの声を聞いた。  
・フェースコート付近でも臭ったと聞いた。  
（組合）  
・一番臭いところで探りたいと思いますが、  
・投入室、フラットホーム、保管ヤード、圧縮梱包したものを保管しているところ、が良いと思っています。もちろんみなさまと約束している基準は敷地境界における基準ですから、敷地境界は探ることとします。よろしいですか。

（委員）  
・はい。  
（組合）  
・日程は組合で決めさせていただいて、通知させていただくこととしたいと思いますが、  
（委員）  
・東られるかどうかはわからないので、写真対応で、ここで行ましたというのは見せていただけたという認識でよろしいですか。

（組合）  
・はい。

3 意見交換  
（委員）  
・運営連絡会で、以前から言っていますが、管理者の出席がないというのは、おかしいと思っています。これは形式的なことではなくて、組合の姿勢の問題だと思っています。管理者が一度くらい来てあいさつするのは当然だと思う。  
（組合）  
・担当者の出席をお願いすることは考えていますが、管理者の出席は考えていません。いただいた意見は持ち帰ります。

（委員）  
・一方的に組合側の勝手な位置づけで開かれ、一方的な意向で解散せられてしまう恐れがある。地域連絡協議会と運営連絡会は一貫しているとの規定はない。  
（組合）  
・用地選定、環境影響、建物さらに運営を含めて地域連絡協議会を設置させていただいた。その中の運営についてこの運営連絡会にお願いをしているということです。

（委員）  
・地域の人たちを集めて、会を開いているのに、管理者である小林（小平）市長が1度も出ていないというのは、組合の姿勢がおかしい。  
（組合）  
・組合の事務方の責任者である事務局長があいさつをさせていただいています。

（委員）  
・小平市の搬入量が一番多いのはなぜですか。  
（組合）  
・3市全体の人口35万人のうち、小平市の人口は19万人、人口によるものです。

（委員）  
・各市の代表者、担当者が来ていただいて、説明があるのは容器包装プラスチックを減らす方向でということですか。美観処理できないのも含まれているので、分別をもっとちゃんとしてくださいという苦案のためも含めて、2つの目的があるのですか。

（委員）  
・3市で収集方法がそれぞれ違うという状況です。収集する段階までは各市の担当ですよね。来たものに関してはこの処理施設の管轄になるので、3市の収集方法が違うとその不選物の割合とかも変わって来るのではないかと。3市は足並みを揃える必要がある。

・収集や分別の方法、容量の仕方か。例えば市ごとに違って、不選物の割合が違う状態だと、そのコストの負担でも、いい加減な分別で持つてる所があったとして、例えば不選物が多く入ってくれば、光触媒とか活性炭とか増えたりしますよね。3市で負担しているのに、その市と同じ負担をするのはおかしいところがある。足並みを揃えてもらうために3市の担当者に来てもらいたいということまで、前回、部々回くらいからお願いしている。

（組合）  
・2つに限らず、市の廃棄物行政全般についても説明があると思います。組合としても周辺の方々が疑問を持ち、不安を持っていることを直接話していただいた方が、強くアピールできるのではないかと思います。

（委員）  
・この施設の方針と書うのが、プラスチックの排出量を減らしていくような方針ですが、例えば、プラスチックを減らしていくように、荷が運動していくと広幅移動していくとかそういうことをこの施設は積極的にやっていくのではないのですか。  
（組合）  
・理想は、施設がなくても市民生活に支障がない状況となることだと思います。3市ももちろんそう思っています。ごみの減量に係る市民へのPRは市役所の社事で、組合が直接市民に対応できるのは見舞いの事です。見学に来たときに「処理は非常に大変です」という話をしますが、まず、「プラスチックはなるべく使わないようにしてほしい」プラスチックで無い物で良いものがあれば、それを使ってほしい」とお願いをしています。

（委員）  
・あともう1つ、抜き打ち検査をしますということですが、具体的にどんな方法でやるのか。  
（組合）  
・フラットホームに空けて、人海戦術で展開をします。袋を1個1個はらして不選物と、汚物や缶などの異物を取り出し、その搬入割合ごとの程度あるか測りたいと考えています。この結果を市に伝えることで、市民に分別の徹底について強力な広報をしてもらうということ、明らかに収集段階で分かるものであれば、直接収集作業員に確認してもらい、施設に搬入しないように指導したいと考えています。

（委員）  
・全体量に対してどのくらいの不選物があるか、按分すると思うが、この市のトラックかということは分かりますか。  
（組合）  
・分かります。

（委員）  
・排ガスの調査をされるって言っていいじゃないですか。  
（組合）  
・検討していますとお話しはしました。

（委員）  
・排ガスはドライアイスを使った、拡散。  
（組合）  
・ドライアイスを使う方法なども考えていますと話しましたが、「ドライアイスは数mで消えてしまうので、拡散状況が分からない」との意見がありました。そこで、発煙筒にすべきかとの話はしたと思います。しかし、発煙筒にしますと周辺への影響が大きいため、散播するハンコ店などは説明をし、理解を得ることも消防署への届が必要になります。理解してくれるかどうか気がかりで、できればやりたくないと考えています。

（委員）  
・さっきもお願いしたけど、健康被害がないかなど、アンケート調査の予定とか将来的には考えていますか。  
（組合）  
・それは考えていません。

（委員）  
・水保病にとても希薄だとか農土病だといわれて、調べてみたら工場が原因だったということもあった。そのような可能性があるわけだから、もう少しちょっと謙虚に対処すべきだと思います。

（組合）  
・施設は、健康被害を起こさないように設計し違っています。  
・みなさんは地域で暮らされていて、マンションを代表して参加されているので、できれば住民の方からいろいろな声があれば、我々の方に伝えていただきたい。また、地域住民の方が直接組合に言っていたらいいのも構わないので、是非このことをみなさんに伝えていただきたい。

（委員）  
・ランニングコストですが、どれくらいかかっているのかは、僕ら全然わからない。税金払っているわけだから。実際、もう2、3か月稼働しているわけだ、どれくらいかかっているのかは、明らかにしてもらえますか。

（組合）  
・予算では、年間約2億5、000万円です。

（委員）  
・決算段階で、予算の消化率とかは説明してもらえますか。  
・3市の負担割合なども教えてください。

（組合）  
・はい。

（委員）  
・そのうちお願いしますけど、ホームページが分かりづらい。  
（組合）  
・わかりました。工夫できることはしていきたいと思っています。

## 小平・村山・大和衛生組合

# エコプラザ スリーハーモニーNEWS

平成31年4月1日から操業しています

No.2

＜内容＞

・資源物中間処理施設運営連絡会会議状況の報告



【地域のみなさまへ】  
**小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設は、小平市、東大和市、武蔵村山市、3市の家庭などから排出されるペットボトルと容器包装プラスチックの選別、圧縮、梱包及び保管を行う施設として、平成31年4月から操業を開始いたしました。**  
**選別、圧縮、梱包作業及び資源の保管は全て建屋内で行い、万全な環境対策を行っています。**  
**今後も施設の操業についてご理解・ご協力をお願いいたします。**  
【愛称について】  
**平成30年9月末から11月30日までの期間において、資源物中間処理施設の愛称募集を行いました。**  
**その結果、10作品の応募があり、小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設愛称選考委員会において、この施設にふさわしい愛称を選考した結果、「エコプラザ スリーハーモニー」となりました。**  
**今後も、施設見学を受け入れるなど、開かれた施設運営に努めてまいります。**

発行元 小平・村山・大和衛生組合 〒187-0033 小平市中島町2番1号  
電 話 042-341-4345 F AX 042-343-5374 <http://www.kmy-eiseikumiai.jp/> 令和元年9月発行



第2回 小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設運営連絡会

議事要録  
日時：平成31年 3月23日（土） 午前10時から午前11時20分  
場所：資源物中間処理施設  
参加者：3名 傍聴者：8名

組合が配布した資料を説明し、意見交換を行った。

《説明内容》  
1 今後の予定  
3月24日（日） 午後ドローンを用いた航空写真の撮影  
3月31日（日） 10時から11時資源物中間処理施設開所式  
4月1日（月） 8時30分から資源物の受入・操業開始  
・資源物の受入時間：午前 8時30分から午後 4時45分  
・施設操業時間：午前 8時30分から午後 5時  
※繁忙期等は午後8時まで延長の場合あり  
・搬入台数は32台程度、その他に搬出車両（大型車）が数台程度あり  
4月9日（火） 暗騒音・暗振動の測定、予備性能試験  
4月16日（火） 引渡性能試験

2 予備性能試験及び引渡性能試験の内容  
（1）処理能力に係る試験  
①処理能力②選別能力  
（2）環境影響に係る試験  
①騒音 ②振動 ③悪臭 ④VOC ⑤粉じん ⑥作業環境

3 車両動線に係る東大和警察との調整結果  
（1）敷地への入退場について  
安全を考え、左折入場、左折退場とすること。  
（2）搬出車両の公道走行の分散について  
退場車両が西武鉄道線路沿いの道を西側に走行することは考慮できる範囲である。

4 その他  
（1）予備性能試験及び引渡性能試験は、事前に申し込みが必要  
（2）排気口からの排気の流れを調べるためには、何らかの目に見える気体（発煙筒）などが必要であり、時期を見て消防署及び周辺地域の了解が得られた場合実施する。

《確認事項》  
・運営連絡会は、2か月に1度の頻度で開催する。  
・次回は5月25日（土）に開催する。  
・次回、VOCなど環境測定結果を報告する。

《意見交換》  
（委員）  
・ブランク（施設がない状態での数値）の環境調査は、9日と10日に実施することの認識でよいですか。  
（組合）  
・ブランク試験は、事前（施設ができる前）に行っていますので今回は行いません。T-VOCの事前の測定結果は敷地境界で42 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ でした。今回は施設の環境性能を測定するもので、T-VOCについては排気口において400 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下にする予定です。  
（委員）  
・42 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ は、ブランクの値との認識でよいですか。  
（組合）  
・はい。  
（委員）  
・400 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ は新築の家とかで出ている数値で、工場に適用される一番厳しい基準との認識でよいですか。  
（組合）  
・400 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ は家の中の基準として厚労省の検討会が検討している値で、400ppmClはVOCを排出している工場に適用される値です。  
（委員）  
・厚労省の値（ $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）と工場に適用される値（ppmCl）がわかりづらいので、わかりやすい資料を提出してほしい。  
（組合）  
・分かりました。  
（委員）  
・第1回の運営連絡会で、次回は3月23日、年2回開催するとの話があった。これに対して、委員からは1月か2月に開催してほしいとの意見が何件もあった。意見を聞かず、連絡もないのはおかしい。不信感が増幅する。  
（組合）  
・そのような意見は確かにありました。連絡をしなかったことは申し訳ないと思っています。  
（委員）  
・第1回の運営連絡会のときに3市の責任者と行政担当者が出席しあいさつすべきではなかったか。  
（組合）  
・地域連絡協議会は、施設建設について地域住民の方と意見調整をさせていただくため設置させていただきました。理事者のあいさつは、この中でさせていただきました。運営連絡会は、その一環で開催するものです。施設の運営は組合の仕事ですので、組合が開催させていただきます。  
（委員）  
・運営連絡会は、地域連絡協議会と基本的に別なので、管理者があいさつしないことにはならない。  
（委員）  
・行政担当の方だって、参加していただかないと。行政に言うと組合がやっている、組合に言うとなら行政それだからって話になってしまうので、その辺も検討してもらいたい。

（委員）  
・地域連絡協議会で意見が出たことについて、当然、運営連絡会の中でも同じように担保されるということですね。  
（組合）  
・すべてではありませんが、できることは施設の設計に活かしています。  
（委員）  
・運営に関してもそうですね。  
（組合）  
・そのように考えています。不安なところがあれば、意見交換を行わせていただき、良い施設として運営していきたいと考えています。  
（委員）  
・搬入車両は、施設から出て、南に突き当たって右折側には行っているのですが、左折側に行っていない理由を教えてください。  
（組合）  
・右側は道回りになります。ただ、皆さんの安全を考慮する必要があるれば、運用の中で研究していきます。  
（委員）  
・警察の見解はどうですか。  
（組合）  
・この件について、特段の指導はありませんでした。  
（委員）  
・組合が示した道は、抜け道として利用する車もあるので、運用ではなくてはっきりとした形で対応してください。通るルートを分散することで交通に対する負荷を減らすことも必要だと思う。必ずしも、組合の示した道を通らなければならない、というのではなく、交通量を見て分散した運用を検討してください。  
（組合）  
・基本的には、組合が示した道路を利用します。その後施設の稼働状況を見て、交通渋滞が起きるようなことがあれば、別ルートも考えます。  
（委員）  
・道路を一か所にすると当然道路も傷む、渋滞だけではない。  
（組合）  
・一日平均で30数台の車両が通って道路が傷むということは考えづらい。皆さんが生活道としているところに収集車が走るようになる、という影響があるのでルートは決めておく必要があります。今回はお示したルートでいかせていただきます。  
（委員）  
・見直しの判断は、委員からの申し入れがあった場合ですか。  
（組合）  
・実害があった場合、見直します。  
（委員）  
・ルートに限らず、見直しや意見交換をするのが運営連絡会の場であると考えてよろしいですか。  
（組合）  
・はい。  
（委員）  
・それは、随時申し入れてもよいのですよね。問題があれば直接でも。  
（組合）  
・直接でも結構ですが、運営連絡会で合意できればよいと思っています。  
（組合）  
・その他のところで何かありますか。次回は、5月18日（土）に開催したいと思いますが、いかがですか。  
※調整の結果、次回は5月25日（土）の開催となった。  
（委員）  
・運営連絡会の開催は、2か月に1回に増やすということですが、運営が始まったばかりなので、もっとこまめにやっていただきたい。  
（組合）  
・分かりました。  
（組合）  
・最後に、地域連絡協議会で、排気の向きを調べてほしいという意見がありました。ドライアイスをを使うなど、どのような方法が良いのか検討中です。  
（委員）  
・議事録は、各委員に見ていただいたうえで上げてもらいたい。  
（組合）  
・承知しました。  
（委員）  
・運営連絡会の対象となる自治会、理事会の範囲（敷地中心から半径200m）は暫定的なものと考えてよいですか。  
（組合）  
・今のところ、変える考えは（暫定的では）ありません。  
（委員）  
・環境測定データが、組合の示した基準を超えたら操業は一旦停止するのですか。  
（組合）  
・そのようにします。

第3回 小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設運営連絡会

議事要録  
日時：令和元年5月25日（土） 午前10時から午前11時30分  
場所：資源物中間処理施設  
参加者：2名 傍聴者：4名

《説明内容》  
・運転状況（4月）の説明  
・性能試験結果について

《確認事項》  
・第2回議事要録の確認  
・第2回での搬入車両台数に関する訂正

《意見交換》  
（委員）  
・武蔵村山市の現状については。  
（組合）  
・武蔵村山市の委託業者がもっている施設で異物を取り除いて、それをまとめて持ってきています。  
（組合）  
・本日の次第に「エコプラザスリーハーモニー」と書いてあります。こちらは、去年の9月末から11月まで公営を行い、10件の応募があり、選定委員会中で、この「エコプラザスリーハーモニー」という愛称を選び出しました。3月31日の開所式で発表させていただいたところです。  
～性能試験の結果説明～  
（委員）  
・私たちの生活にあまり関係ないと言えば、それまでですけども、作業室内の室内騒音ですね。手選別作業室、88dBと比較的高い数字になっていますので、何らかの対策をされてはいると思いますけれども、耳栓の着用が85dBから推奨みたいながあるので、下げられるような取り組みをしていただければと思います。  
（組合）  
・分かりました。  
・破袋をし、そこに落下するときに、フードにペットボトルが当たるときの音が大きいので、ゴムを貼って緩衝させるなどの検討はしています。  
（委員）  
・私の管理組合のマンションに住民の方からの意見ですが、ペールを積んだトラックの出入りのときに若干臭気を感じられるという意見が出ております。性能試験は敷地境界でやっていただいておりますけども、常時監視しているのは排気のところだと思うので、エアーカーテンの性能がきちんと機能しているのかと、出入りする際の臭気、それから敷地境界でどうなのかというところを検証していただけたときがあるのであれば、検証していただきたい。  
（組合）  
・臭気測定の方法を検討します。  
（委員）  
・具体的に苦情はあがっていませんか。  
（組合）  
・苦情は向ってないです。  
（委員）  
・これは稼働前の話したが、騒音がひどく警察が来たとか来ないとかの話聞いた。  
（組合）  
・警察は来ました。  
（委員）  
・騒音のことで？  
（組合）  
・外部掘削工事を遅い時間にしてしまいまして、通報があって警察が来たという状況。  
（委員）  
・直接組合の方に苦情はなかったか。  
（組合）  
・鉄骨の梁と柱をボルトで留める工程で騒音の苦情をいただきました。  
・いただいた方は、お二人かと思いますが、件数は5～6件です。  
（組合）  
・先ほどの42 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ というのは、現況の最大値、事前に測ったブランクの最大値で、それに対してこの施設が稼働したときの予測値が126 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ です。ですから、それに対して排出口では予備性能試験では1回目350 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ と2回目160 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 出ているということです。  
（委員）  
・とった時がすごい環境が良かったのか、よく分かりませんが、このとき4月9日の試験ですが、測定したとき、敷地境界のVOCが200 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 前後です。2/2で1-3と書いてある。この数字は脱臭装置の外、2回目よりも高くなっている。再度の確認よろしく願います。  
（組合）  
・承知しました。  
（組合）  
・T-VOCというのは、私どもで定義して表現している数値で、一般的に用いられる名称ではありません。ppmClのVOCと分けるために私どもでT-VOCとの名前を使っています。  
～その他、要望書への回答～  
（委員）  
・前回でも言いましたけども、200mっていう範囲が妥当だと思ってない。影響がそれ以上に及ばないってことはないと思うので、これに対しては検討しなおして欲しいというのが要望です。当然地域連絡協議会の方でも行政担当者加わっていたので、こちら（運営連絡会）でも行政担当者に来ていただいて、直接お話しできるような環境にしていきたい。  
（組合）  
・以前から回答させていただいているとおり、地域連絡協議会の枠組みの一環で運営連絡会を開催しております。中島町の連絡協議会については、その場所にすでにその施設があるわけです。そしてそれにプラス建設ということで、3市の清掃行政に係ることもあるので担当者に入ってきていただいています。今後、焼却施設の建設が終了すれば、こちらの運営連絡会と同じように、要綱を変えていくとも考えています。  
（委員）  
・収集方法については市のほうの担当なので、というお話しも前回か前々回かされました。収集してきたもの、汚れたものは結局焼却になってしまうとお話しがありましたけども、そちらの収集の方法については、例えばごみの有償化、有料化等々の話しも絡んでくると思うので、やはりそういうところも含めて考えると、清掃の担当課長等は参加していただいて、そちら収集の状況、洗浄状態とか、どういうものをこちらの施設に持ち込んでもらうように市民に伝えて、収集していくのかという話しは、していただかないとこの施設の運営もそうですし、結局廃プラスチックが集めただけ再生できなくなってしまうという話しとかも社会的に出ていますので、やはり3市の清掃課長なり、担当の方、衛生部門の担当の方に来ていただいて、そこは話しはしていただくことは必要なと思います。また、市長のあいさつは形式的なこと、心情的になってしまうので、個人的にはいいかなと思ったりはします。

（組合）  
・現状で不運物とかいろいろと混じてきているわけですから、施設を運営管理している組合から3市に状況を伝えて改善を依頼しています。  
・細織市の部長との会議で組合から強力に申し上げているのは、もっと分別の精度を上げてほしい。残が多いので、汚れたもの、汚れの取れないものも入っているし、ビンもカンも入っているの、もっと徹底してくださいということです。運営連絡会からも要望があったという事はしっかり3市の担当者に伝えます。  
（委員）  
・武蔵村山市が本格的に搬入し出すというのは、何年くらいですか。  
（組合）  
・令和4年に有料化をする計画であると聞いているので、その際に分別の変更も行うことになると思います。  
（委員）  
・（収集車両の搬出）コースに関しても、少なくとも1ルートにしたって線路際まで行って回れば、一番良い。向こうの道路の方が広いし、そんな大してガソリン食う訳じゃないので、今のルートが良いと思っていません。実際、武蔵村山市が入りだしたときに、どうなっていくのかっていうのは分からないので、なんとも言えない。確かに渋滞はしていないみたいですが。  
（委員）  
・月で130台くらい増えるのですよね。武蔵村山市の収集が始まったとして、この4月分の数字を見てとなりますけど、東大和市と武蔵村山市は収集の量として、1日平均の量として重量がほとんど一緒です。東大和市と。台数が130台くらい少ない。130台くらい増えるのでは。  
（組合）  
・長期的な話ですけど。3市ともペットボトルも容リプラも減らす方向で予測をし、施策を打って、減らします。その計画値に基づいて施設の規模設定をしています。計画値よりも増えたら強力に組合として減量要請をすることになります。もちろん人口も減りますし、そこに施策も入りますから、右肩上がりではなくて右下がりにならなければいけないと考えています。  
（委員）  
・以前も環境基準を超えた場合は設備を停止するというんですけども、仮に超えてしまっただけで一旦停止します。その計画値に基づいて施設の規模設定をしています。計画値よりも増えたら強力に組合として減量要請をすることになります。もちろん人口も減りますし、そこに施策も入りますから、右肩上がりではなくて右下がりにならなければいけないと考えています。  
（委員）  
・VOCについてそんなに詳しくないのですが、イソシアネートという臭気成分っていうのがあるって、それはかなり危険なものらしいが、それについては触れられていない。私も詳しくないのでできれば詳しい方に聞いていただいて、そちらの方でも、日本の基準ではそれについては触れられていない。アメリカなんかでは厳しくやっているみたいなので、その辺の情報を仕入れてもらって、ここでも反映させられるような方法を考えてもらいたい。  
（組合）  
・調べてみます。  
（委員）  
・いわゆる不適合品というのは可燃残さというのが不適合品になって考えていいですか？  
（組合）  
・はい。  
（委員）  
・汚れたものとか。可燃残さというのが不適合品で。容器包装とペットボトルに関しては再生ゴミになるわけですよね。これは（再生量）各市ごとに出ない（算出できない）わけですよね。  
（組合）  
・出てないです。  
（委員）  
・総量でしかでない。搬入の場合は出ていますよね。  
（組合）  
・搬入の場合は搬入時に計量します。  
（委員）  
・処理自体を分けてやっているわけではないので、それだけで市ごとに出すのが難しいということですよ。  
（組合）  
・そういうことです。  
（委員）  
・だから、推計と言う形で。搬入に対してこれ位の割合だから、おたくはこれ位だろうというのは、推計で出すとしたら出せないということですよ。でも現実には凹凸がある。  
（委員）  
・市ごとで、要は可燃残さの割合が多い市が出てきて、その収集方法がどうだかっていう話しができないということですよ。  
（組合）  
・はい。  
（委員）  
・結果を知りたいので分けてデータが取ればと思っても現実としてそこをとるのは難しいと。  
（組合）  
・施設側として分別もしっかりやってほしいという意味もあって、市別、全部を分析できないので、抜き打ちでA市、B市、C市それぞれ任意に残さがどの程度あるのか、そういう調査はやってみたいと考えています。  
（組合）  
・次回は7月20日（土）10時からということで、この場所でお話ししたいと思います。  
（委員）  
・1点言い忘れましたが、排出のVOCを表示していただいていると思いますがそちらも月単位で良いので、ミニマム、マックス、アベレージを次回出していただければと思います。  
（組合）  
・それはできると思います。